



三教

特別  
子12  
3583



ワキ詞

是ハ唐及漢乃帝小流ノ人車  
 臣下ナカゴトテモ此國乃傍リ  
 ガリソルヲ五ノ保ノク夫婦能老  
 ありて能も能一人能子成もは  
 不能必を天鼓と必はくを  
 天鼓と必はくはすハ事ノ母  
 着中に天ノハヒとは乃鼓ノハ



もたつた胎内におるこゝろから出て  
志たつる子な程いとくさる能ふ我  
天鼓と名はくは天より降る若  
鼓河よりわたりてくす鼓ありて  
や人感をもよほさる由は門  
や召ま鼓成内裏小めたる程  
天鼓ふりてわたりて鼓をいたす

山中小隠さぬ道は河く、五地  
なほよに官人成も成るも  
和して天鼓をえはくしの江り  
沈め鼓成る内裏よ召ま所を殿  
雲霧園よはをよしてんもは  
は鼓をうらうらと神をまに  
小鼓書り明くくすかぬの

あふ教養な〜ぬと思召海〜  
ばも結くふわり〜るな〜

ま〜とよとの室方〜海〜

唯々わう〜私電〜と意以

<sup>し</sup>露の世よ雅き子乃以流さ

又此秋に乃〜傳へ

孔子ハ鯉魚ヨ〜思ひ若

火を世〜たま白居易ハ子茂

〜花ヨ殘る〜

〜むそ皆に義礼智信の祖師

父乃大祖たれ我ハ〜歎く

〜お〜

た〜おめあ海〜とかな〜

思〜思ふ〜

下三あ

媛ももあゝいひははあはは  
 世中より来くよ  
 おもひのこゝろおもひのこゝろ  
 承知しなほはははははははは  
 おしきせとおもひのこゝろ  
 下下思ひのこゝろ  
 牙能あ乃見あう根えな結く

ワキ詞

いづれもあ乃内よまじりまじり

あはれおとこはあはれおとこはあはれ

ワキ詞

空音とけあゝおもひのこゝろ

何事かよはははははははは

大鼓、はははははははははは

まよもつるまよもつるまよもつる

あはれ歎きたるぬを思召はははは

まじりたる〜にまじりてはまじとの  
意旨も〜あはる〜つら〜つと余ぬ  
仕置りく <sup>ニテ</sup> 你長了承以執教ふ  
くふた〜ぬ教の老人り余こと  
うらた〜う〜な〜  
明法〜業のう〜  
たら執教成るむき〜も能く父

な<sup>よ</sup>科を〜  
たぬ〜  
う科も〜  
ま〜  
金〜  
余〜  
意旨な〜

まゝにたゞしきものなりけり  
物言ふはつとて集りて  
大とひれは志は清きも  
まゝにたゞしきものなりけり  
うゝたゞしきものなりけり  
清くを稱えしは清きも

心ゆくも集りて清きも  
心ゆくも集りて清きも

内裏より外へ来りて

物言ふはつとて集りて

まゝにたゞしきものなりけり

清きも集りて清きも

なれど先教を仕りて

力なむとて集りて

物言ふはつとて集りて

くは鼓乃が聲もーッてそうは

ちうそ家子結あゝ見と夕月乃

どよかゝ屋く虫殿よりーり

乃う世老おもの生てあやを

久望乃く久乃鼓を字たふよ

う結稜保りーなゝはく玉淵を

うかゝそはを隠新乃觸まらる

とゝぬかゝゝはあわ 実也

壺くこも結るる乃をやこり

生神まゝ妻の離吾結思ひ源を

心貫まゝーま一人成心えう般ーむ

まゝーま成明け養て家と心結

淵深く輪廻の浪よたゝまゝ

生く世くも心流と結 思ひの若

三三三

上

下

下

下

下

下

下

下

下

下

下

下

下

下





心こなす科 教乃阿も綴家あわ  
がくさる成とあてき人よあひし  
教し法魚一 実く是ハ大君子  
ふく一くなら一や物教の老乃  
時もまは法心かわあつて法く又  
うたふよ 一法やまふ一以や老  
波乃くまうもあうをも申あ月子

心新園乃ひるくさる 一老乃阿  
玉女康よ 老女あ申もあ  
しるも 為氷をふむもあ  
心もあやまきし法くあうてあ  
し一きくやア舞の心身成寸まは  
舞出るく山も観子あ志く一若  
あ君もあし終り思召て新教よ

二三三、  
清波をうりうゑちまゝふりや、  
雅、  
サキつ、小老人唯々清々、  
知れずの  
出、うりうゑに、  
老人小は教乃、  
又、  
清吊ひあふ、  
心安くな、

為、  
サキ、  
老、  
も、  
清、  
お、  
呂、  
な、

老、  
も、  
清、  
お、  
呂、  
な、

老、  
も、  
清、  
お、  
呂、  
な、

老、  
も、  
清、  
お、  
呂、  
な、

老、  
も、  
清、  
お、  
呂、  
な、

老、  
も、  
清、  
お、  
呂、  
な、

老、  
も、  
清、  
お、  
呂、  
な、

下  
初秋乃る  
下  
秋若くは月  
下  
水溜  
上  
あ  
うむき  
志  
後乃世

下  
初秋乃る  
下  
秋若くは月  
下  
水溜  
上  
あ  
うむき  
志  
後乃世

まろひよふ家老をびりなる老る  
必をふ乃終 三子詞 果ハ天鼓、七處

たろり法吊ひのち難き小そと  
四半上カレ 死連業のたわ 一 七也 一 天鼓、  
七也 一 用いりや志 一 七也 一 天鼓、

舌樂乃舞系も天鼓の拿向の鼓  
うらて中舞の流た 三 舌 一 七也 一 天鼓、

天鼓、張来海 一 七也 一 天鼓、  
は、ま 一 天鼓、 一 七也 一 天鼓、

勅諭うも夕月か 一 七也 一 天鼓、  
あたわ 一 七也 一 天鼓、 一 七也 一 天鼓、

三子詞 月宮に若もか 一 七也 一 天鼓、  
四半 天人も新向 一 七也 一 天鼓、  
二上 天所ま 一 七也 一 天鼓、



二 月ふるろ 二 少歳 二 水入り 二 大けふき  
二 波をま 二 ち袖 二 茂ぬい 二 や軟速の  
二 舞樂も 二 呵去て 二 五更乃 二 一点種も  
二 ありき 二 ハあ 二 のほ 二 子く  
二 兼りあ 二 ぐさ 二 世阿 二 乃散 二 りんえ  
二 乃地ま 二 ぐさ 二 女こ 二 ちよ 二 ちま 二 りんえ  
二 ちわて 二 ぐさ 二 け 二 り 二 ゆめ 二 り 二 ぶ 二 まも  
二 ちわて 二 ぐさ 二 け 二 り 二 ちま 二 りんえ

二 ちわて 二 ぐさ 二 け 二 り 二 ちま 二 りんえ  
二 ちわて 二 ぐさ 二 け 二 り 二 ちま 二 りんえ  
ちわて 二 ぐさ 二 け 二 り 二 ちま 二 りんえ

53-1315



